



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 平成 30 (2018) 年度 研修生受入事業 —
(終了時評価—2019 年 4 月)

個別研修生受入 (VMS)

研修生受入の概要

研修コース名	個別研修生受入
参加国及び参加人数	1 か国 1 名 (ソロモン諸島)
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国かつお・まぐろ漁業の重要な漁場である太平洋島嶼国では、自国 200 海里排他的経済水域内における外国漁船の操業管理について、島嶼国主導強化の目的から 1979 年に太平洋島嶼国フォーラム漁業機関 (以下、「FFA」と言う。) を設立した。</p> <p>FFA は、太平洋島嶼国 200 海里排他的経済水域内における外国漁船の操業条件のガイドラインを策定するとともに 1990 年頃から FFA 漁船地域登録制度を導入し、2000 年頃から島嶼国 200 海里水域内の外国漁船の動向・監視目的で Vessel Monitoring System (以下、「VMS」という。) 制度を開始した。</p> <p>本研修は、我が国と FFA の漁業協議の場において要望されており、FFA 及び太平洋島嶼国政府の VMS 担当者の技術要件等の理解を深め、また、我が国との協力関係の強化のため設定したコースである。</p>
研修期間及び研修場所	<p>2019 年 3 月 11 日～3 月 19 日 (9 日間)</p> <p>一般研修：3 月 12 日 (1 日間) (研修場所：海外漁業協力財団)</p> <p>技術研修：3 月 13 日～3 月 18 日 (6 日間) (研修場所：船舶機器メーカー等)</p>
上位目標	関係途上国における水産業の振興と協力関係の強化が図られる。
研修目標	水産関連機関・組織が推進する漁業振興・管理を担う良質な技術者等が育成される。
成果	水産関連機関・組織の管理運営の知識・技能が向上する。
活動	<p>技術研修</p> <p>座学：船用機器・システム概要</p> <p>実習：船用機器取扱い</p> <p>見学：まき網漁船・はえ縄漁船</p>
投入	<p>財団側</p> <p>1) 一般研修</p> <p>人的投入 (研修監理員)：1 名</p> <p>物的投入 (研修資材等)：研修備品等</p>

	<p>2)技術研修 人的投入（指導員・研修監理員）：常時1名以上 物的投入（研修資材等）：船用機器、船用機器関係テキスト等</p> <p>3)事業費 0.4百万円</p> <p>受入対象国側 投入なし</p>
--	--

評 価 事 項

◆ 妥 当 性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

我が国と漁業関係を有する途上国は、自国水産業の開発・振興と適切な漁業管理制度の構築を重要な政策と位置付けており、先進的な水産技術に触れることが出来る我が国での研修ニーズは大きい。

本研修の内容は、VMS 担当者のキャパシティビルディングを図るものであり、相手国・機関のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

研修実施計画の内容は、VMS 担当者に必要な基礎的な知識及び技術を習得させるとともに、我が国の漁業現場の実情を正しく認識してもらうため、漁船の見学等を行うものであり、実施計画は所要の項目をカバーしており妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

指導員、研修監理員等を適切に配置する等、日常生活を考慮して実施計画が作成された。

4. その他

特になし。

◆ 効 率 性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

各船用機器メーカー及び漁業現場において、経験豊富な指導員が船用機器取扱い

講習等を行った。

これら指導員の配置に加え、研修教材及び資材並びに使用される施設等は計画通りに投入され、期待される成果を上げた。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

座学、実習、見学の研修日数、内容、水準及び指導方法は、これまでの経験を踏まえ、適切に計画され、実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

◆ 有効性

1. 研修目標の達成度

研修目標：水産関連機関・組織が推進する漁業振興・管理を担う良質な技術者等が育成される

研修生は、所属機関において研修分野の職務経験を既に有しており、本研修で更なる知識と技能を習得することにより、研修生の舶用機器に関する知識及び技能は向上し、研修目的は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

本研修を通じて水産関連機関・組織の担当者の知識及び技能が向上したことから、今後の関係途上国における水産産業を担う人材の育成と協力関係の強化に一定の効果が見込まれる。

2. 研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

研修生による舶用機器の管理運営能力、技能が向上し、これらが、水産関連機関・組織に伝播することにより、水産産業を担う人材のレベルアップに一定の効果が見込まれる。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

研修生の知識及び技術力の向上は、所属する水産関連機関・組織及び太平洋島嶼国が政策を実施するうえで貴重なものであり、研修生は実務担当者として知識、技能の普及や一層の業務の効率化、高度化を目指すことが期待され、成果は有効に活用される。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上